

授 業 科 目 名	栄 養 学	担 当 教 員	後 藤 香 織
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	栄養学とは	エネルギーとは？代謝とは？栄養とは？	
2	代謝と栄養	糖代謝	
3	〃	脂質代謝	
4	〃	アミノ酸代謝	
5	〃	タンパク質合成	
6	〃	セントラルドグマ	
7	病気と栄養	電解質代謝、ビタミン、ミネラル	
8	〃	栄養所要量の計算、消化器疾患(I)	
9	〃	消化器疾患(II)	
10	〃	消化器疾患(III)	
11	〃	腎疾患(I)	
12	〃	腎疾患(II)	
13	〃	内分泌、代謝疾患(I)	
14	〃	内分泌、代謝疾患(II)、循環器疾患	
15	まとめ	血液、感染症、アレルギー、骨、関節疾患 演習 他	
	テキスト	「新選 食品成分表」 (実教出版) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 (文光堂) 「新版看護学全書 栄養学」 (メジカルフレンド社)	
	参考書	①「ナースのための生化学. 栄養学」 (南山堂) ②「臨床栄養学 食事療法の理論」 (医歯薬出版株式会社) ③「看護栄養学」 (医歯薬出版株式会社)	

授 業 科 目 名	英 語 II	担 当 教 員	杉 田 雅 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	Introduction	授業の説明	
2	Unit 1	Adult Day Service について読む / 通院のときの会話	
3	Unit 2	Nutritional Considerations for the Elderly について読む / リハビリテーション室での会話	
4	Unit 3	Preventing Patients from Becoming Permanently Bedridden について読む / 基本的指示とリスク対策の会話	
5	Unit 4	Normalization について読む / 関節可動域訓練の会話	
6	Unit 5	Group Homes for the Elderly with Dementia について読む / 早期坐位とベッドサイド訓練の会話	
7	Unit 6	The Way Ahead-Disability Sports について読む / 車椅子と移乗動作の会話	
8	Unit 7	Child Abuse について読む / マット上訓練の会話	
9	Unit 8	Animal Assisted Therapy について読む / 立ち上がり訓練の会話	
10	Unit 9	Care in the UK について読む / 歩行練習の会話	
11	Unit 10	Ethical Considerations for Human Service Workers について読む / 呼吸・排痰訓練の会話	
12	Unit 11	Burnout について読む / 温熱療法・牽引療法の会話	
13	Unit 12	Depression in the Elderly について読む / 水治療法・利き手交換の会話	
14	Unit 13	Alzheimer' s Disease について読む / 会話の総復習	
15	Examination		
テキスト	「Well-Being : English for Caregivers」瀬谷幸男 他 著 (南雲堂) 「20 Medical Dialogs」古閑博美 他 著 (弓プレス)		
参考書			

授 業 科 目 名	体 育 II	担 当 教 員	近 藤 照 彦
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	体育IIについて 体カテスト	講義概要説明(実験室) 12分間走・下肢筋力・体脂肪・形態	
2	体カテスト	12分間走・下肢筋力・体脂肪・形態	
3	体カテスト	12分間走・下肢筋力・体脂肪・形態	
4	体カテスト	12分間走・下肢筋力・体脂肪・形態	
5	スポーツ大会練習	ソフトボール・サッカー・大縄跳び(グラウンド・体育館)	
6	選択スポーツ	レクリエーション系・スポーツ系を選択	
7	選択スポーツ	同上	
8	選択スポーツ	同上	
9	選択スポーツ	同上	
10	選択スポーツ	同上	
11	選択スポーツ	同上	
12	選択スポーツ	同上	
13	選択スポーツ	同上	
14	選択スポーツ	同上	
15	予備日		
	テキスト	指定せず	
	参考書		

授 業 科 目 名	運 動 学 実 習	担 当 教 員	近 藤 照 彦
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	運動学実習とは	講義概要解説、運動学実習とその6領域の教官紹介、実習説明、6班編制の説明など	定義・目的
2	レポートの書き方 統計処理法	担当：近藤照彦 観察、実験および測定を行い、得られたデータの基本的な解析を行い、実習の目的に沿った考察を加えレポートとして完成させる一連の手順を学ぶ	
	実習領域①		
3	筋力・筋機能	実習領域①担当：近藤照彦	四肢と体幹の運動
4	筋力・筋機能	実習内容別途指示する	運動器の構造と機能
	実習領域②		
5	呼吸循環・エネルギー代謝	実習領域②担当：江口勝彦・富田和秀	運動とエネルギー代謝
6	呼吸循環・エネルギー代謝	実習内容別途指示する	運動と呼吸循環 運動処方
	実習領域③		
7	運動・動作分析	実習領域③担当：富田 浩	運動分析・動作分析
8	運動・動作分析	実習内容別途指示する	
	実習領域④		
9	歩行	実習領域④担当：柴田雅祥	歩行
10	歩行	実習内容別途指示する	
	実習領域⑤		
11	感覚	実習領域⑤担当：北川公路	運動制御と運動学習
12	感覚	実習内容別途指示する	
	実習領域⑥		
13	姿勢	実習領域⑥担当：目黒 力	力学の基礎・姿勢
14	姿勢	実習内容別途指示する	
15	実習予備日・総括		
	テキスト	「運動学実習マニュアル」(アイペック)	
	参考書		

授 業 科 目 名	病 理 学	担 当 教 員	武 田 淳 史
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	病理学とは	病理学について、細胞の構造と働き、代謝異常について	I 人体の構造と機能  (解剖学)
2	修復と再生	組織の修復と再生、老化	A 総論
3	循環障害	充血、うっ血、虚血、梗塞	B 骨格系
4	炎症、免疫	炎症、免疫、アレルギー、感染症	C 筋系
5	腫瘍	腫瘍の分類、転移。良性、悪性腫瘍	D 神経系
6	遺伝と先天異常	遺伝病、染色体異常、先天異常、遺伝子治療	E 脈管系
7	循環器各論	血管と心臓の病気	F 内臓諸器官
8	呼吸器各論	肺の構造と働き、炎症、循環障害、閉塞性、拘束性肺疾患、肺癌	G 感覚器
9	消化器各論	食道、胃、腸の疾患、肝、胆、膵疾患	(運動学)
10	造血器各論	赤血球、白血球の異常 リンパ節の病気	A 運動器の構造と機能
11	泌尿器各論	腎臓、膀胱の病気	B 運動と呼吸循環
12	生殖器各論	女性生殖器、男性生殖器の病気	II 疾病の障害と成り立ち
13	神経系各論	外傷、循環障害、感染症、変性疾患、腫瘍	(病理学概論)
14	内分泌系各論	視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓疾患	A 病因論
15	運動器各論	骨・軟骨、筋肉疾患	B 退行変性、代謝異常
	テキスト	「シンプル病理学」 綿貫 勤 著 (南江堂)	
	参考書	「系統看護学講座 専門4 病理学」 坂本 惇彦 著 (医学書院)	

授 業 科 目 名	臨 床 心 理 学	担 当 教 員	北 川 公 路
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ～ 2	臨床心理学の理念	臨床心理学の理念 臨床心理学の全体構造	基礎理論・歴史 学習・記憶・行動
3 ～ 5	アセスメント	面接法・検査法（質問紙法・投影法・知能検査・神経心理学検査）・観察法	臨床心理検査法
6 ～ 8	アセスメント：異常心理学	異常心理学・DSM—IV・精神症状と薬物療法 統合失調症・気分障害・不安障害・身体表現性障害と 解離性障害・性障害・性同一性障害・摂食障害 人格障害	正常および異常理論
9 ～ 11	アセスメント：発達臨床心理学	生涯発達・知的障害・自閉症・学習障害・注意欠陥/ 多動性障害・虐待・不登校・いじめ・障害者心理	児童・青年期心理 成人・高齢者心理 障害者心理
12 ～ 15	理論モデル	精神分析・分析心理学・行動療法・クライアント中心療法・認知行動療法・家族療法・コミュニティ心理学・森田療法・内観療法	防衛機制と転移 心理療法 カウンセリング
	テキスト	「よくわかる臨床心理学」 （ミネルヴァ書房）	
	参考書		

授 業 科 目 名	内 科 学	担 当 教 員	小 林 功
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	症候学	主要臨床症状の把握	準拠
2	診断学と治療学	内科診断学と治療	〃
3	感染症	主要な事項を理解する	〃
4	循環器疾患	〃	〃
5	呼吸器疾患	〃	〃
6	消化器疾患	〃	〃
7	肝・胆・膵疾患	〃	〃
8	血液疾患	〃	〃
9	代謝性疾患	〃	〃
10	内分泌疾患	〃	〃
11	腎泌尿器疾患	〃	〃
12	膠原病・アレルギー 性疾患	〃	〃
13	中毒・物理化学的要 因による疾患	〃	〃
14	皮膚疾患	〃	〃
15	理学療法と内科学	〃	〃
テキスト		「標準理学療法学 作業療法学 内科学」大成浄志（医学書院）	
参考書			

授 業 科 目 名	神 経 内 科 学	担 当 教 員	古 城 徹
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	神経学とは	疾病と老化をテーマに、脳・神経に関する理解を深めるためのオリエンテーションをおこなう	
2	脳と神経 1	脳・神経系のおもな構造と機能を理解する	脳・神経の構造と生理
3	神経疾患総論 1	脳・神経の発達と加齢による変化を含めて病態をとらえる	脳・神経の病態生理
4	神経疾患総論 2	病気の診断の手がかりとなる症候について、とくに急性と慢性を分けて説明できるようにする	神経学的症候と診断
5	神経系の検査	おもな検査法と、その所見から得られる情報を学ぶ	神経学的検査法
6	治療概説	疾患の治療について具体例を挙げながら、内科一般の治療と結びつけて理解する	治療法一般
7	神経疾患各論 1	脳卒中のおもな分類と各論を学ぶ	脳血管障害
8	神経疾患各論 2	脳卒中以外の脳疾患の概略を学ぶ	外傷性脳損傷
9	神経疾患各論 3	神経系の感染症を小児と成人に分けて理解する	感染症
10	神経疾患各論 4	パーキンソン病などの変性疾患について理解を深める	脱髄疾患・変性疾患
11	神経疾患各論 5	先天異常の診断と加齢による変化の違いを学ぶ	先天異常
12	神経疾患各論 6	脊髄疾患の診断と経過・予後について学ぶ	脊髄疾患
13	神経疾患各論 7	末梢神経に起こる病変と各論を学ぶ	末梢神経疾患
14	神経疾患各論 8	自律神経系の異常と症候を結びつけて疾患を理解できるようにする	自律神経疾患
15	神経疾患各論 9	筋肉の異常を先天性と後天性疾患に分けて学ぶ	筋疾患
	テキスト	「神経内科学テキスト」江藤文夫(南江堂)	
	参考書		



授 業 科 目 名	整 形 外 科 学	担 当 教 員	橋 本 俊 英
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	総論 1	整形外科の基礎知識	
2	総論 2	骨関節疾患の評価と治療	
3	各論 1	炎症性疾患	
4	各論 2	代謝・内分泌疾患、退行性疾患	
5	各論 3	先天性疾患	
6	各論 4	脊椎の疾患、脊椎・脊髄損傷	
7	各論 5	骨折・脱臼の総論、体幹の骨折と脱臼	
8	各論 6	上肢の骨折と脱臼	
9	各論 7	下肢の骨折と脱臼	
11	各論 8	腱・靭帯の損傷、スポーツ外傷	
12	各論 9	循環障害と壊死疾患	
13	各論 10	骨・軟部腫瘍、神経筋疾患	
14	各論 11	熱傷、褥創、切断	
15	予備	予備	
	テキスト	標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野) 整形外科学	
	参考書	講義で紹介	

授 業 科 目 名	小 児 科 学	担 当 教 員	青 山 正 征
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	小児科学概論	こどもの成長・発達について学ぶ	a. 小児の成長と発達
2	小児科学概論 (つづき)		b. 小児保健と小児栄養
	診断と治療の概要		c. 小児科学的症候と診断
3	新生児・未熟児疾患		d. 小児科学的検査法
4	先天異常、先天代謝異常		e. 治療法一般
5	神経・筋・骨等疾患	リハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	f. 先天異常及び系統疾患
6	神経・筋・骨等疾患 (つづき)		g. 脳・神経・筋疾患 てんかん
7	循環器疾患、呼吸器疾患		h. 循環器疾患、呼吸器疾患
8	感染症、消化器疾患		i. 感染症、消化器疾患
9	内分泌・代謝疾患		j. 内分泌・代謝疾患
10	血液疾患		k. 血液・造血器疾患
11	免疫・アレルギー疾患、膠原病		l. 免疫・アレルギー疾患
12	腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、腫瘍性疾患		m. 泌尿器疾患
13	心身症、神経症など		n. 知的障害
14	重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患	特に重症心身障害児に焦点をあてて学ぶ	
15	テスト		
	テキスト	「PT・OT 専門基礎分野 小児科学」 富田 豊 (医学書院)	
	参考書	「NEW 小児科学」 桃井眞里子他 (南江堂) 「小児科学第2版」 白木和夫他 (医学書院)	

授 業 科 目 名	精 神 医 学	担 当 教 員	山 本 芳 正
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	総論 1	精神病の生物学的基盤と社会文化的背景、発症因子、精神病の予防、診断、治療、リハビリ	Fa : 精神障害の原因と分類 Fb : 精神医学的症候と診断 Fc : 精神医学的検査法 Ff : 精神科リハビリテーション, 社会復帰
2	総論 2	精神医学と法律、入院の形態、入院患者の権利保障、司法精神医学	Fh : 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
3	統合失調症 1	統合失調症の精神病理、発症の背景	Fk : 精神分裂病, 分裂病型障害および妄想性障害
4	統合失調症 2	統合失調症の治療、精神薬理、リハビリ	Fk : 同上
5	躁鬱病 1	躁鬱病の精神病理、発症因子	Fl : 気分(感情)障害(躁鬱病, 鬱病)
6	躁鬱病 2	躁鬱病の治療、精神薬理	F1 : 同上
7	神経症	強迫神経症、不安神経症、心気症	Fm : 神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害
8	人格障害	境界型人格障害、その他の人格障害	Fo : 成人の人格および行動の障害
9	摂食障害	拒食症、過食症	Fo : 同上
10	薬物依存	アルコール依存症、薬物依存	Fj : 精神作用物質使用による精神および行動の障害
11	児童精神医学	発達障害、学習障害、多動症、知的障害など	Fr : 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害
12	てんかん	てんかんの神経学、分類、診断、治療	Fs : てんかん
13	痴呆 1	症候性の痴呆、脳血管性痴呆	Fi : 器質性精神障害
14	痴呆 2	アルツハイマー病、その他の変性疾患による痴呆	Fi : 同上
15	まとめ		
		注：実際の講義は、上記の1回から15回の内容を交えながら行うため、各回の講義の進行は、早く進んだり、遅れたりする可能性がある。	
テキスト		「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学」 上野武治編集 (医学書院)	
参考書		「精神医学」 大月三郎著 (文光堂) 「精神医学ハンドブック」 小此木圭吾編 (創元社) 「看護のための精神医学」 中井久夫+山口直彦著 (医学書院)	

授 業 科 目 名	リハビリテーション医学	担 当 教 員	栗 田 昌 裕
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	障害の評価1	医学的情報の評価、機能障害の評価、能力低下（活動制限）の評価	障害の評価
2	障害の評価2	社会的不利の評価、環境因子の評価	障害の評価
3	機能障害の病態生理と回復1	筋肉・柔部組織損傷、骨・関節損傷、末梢神経損傷	
4	機能障害の病態生理と回復2	大脳・基底核・脳幹・小脳の損傷、高次脳機能障害 脊髄の障害。	機能障害の病態生理と回復
5	機能障害の病態生理と回復3	痛み、呼吸機能、心機能、嚥下と口腔衛生、排泄	機能障害の病態生理と回復
5	廃用症候群などの病態生理	発生機序、廃用症状、誤用と過用	廃用症候群
6	治療理論1	関節可動域、筋力増強、中枢神経障害	治療理論
7	治療理論2	体力と持久力、バイオフィードバック、運動負荷とリスク管理	治療理論
8	リハビリテーション医学の臨床1	脳血管障害、外傷性脳損傷	脳血管障害、外傷性脳損傷
9	リハビリテーション医学の臨床2	脊髄損傷、脳性麻痺、末梢血管疾患	脊髄損傷、脳性麻痺、末梢血管疾患
10	リハビリテーション医学の臨床3	切断と義肢、末梢神経麻痺、変性疾患	切断と義肢、末梢神経麻痺、変性疾患
11	リハビリテーション医学の臨床4	筋疾患、慢性関節リウマチ・その他の膠原病	筋疾患、慢性関節リウマチ・その他の膠原病
12	リハビリテーション医学の臨床5	骨関節の外傷および疾患、呼吸器疾患	骨関節の外傷および疾患。呼吸器疾患
13	リハビリテーション医学の臨床6	循環器疾患、糖尿病、血液疾患	循環器疾患、糖尿病、血液疾患
14	リハビリテーション医学の臨床7	悪性腫瘍、視覚障害、聴覚・平衡障害、高齢者	悪性腫瘍、視覚障害、聴覚・平衡障害、高齢者
15	その他	必要に応じて内容を補う	
テキスト		「入門リハビリテーション医学」監修 中村隆一（医歯薬出版）	
参考書			

授 業 科 目 名	臨 床 検 査 学	担 当 教 員	小 林 功
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 7 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	臨床検査とは 総論	診察・検査・診断・治療の流れ どんな検査があるか 検体の採取と取り扱い・検査の種類と基準値の考え方	
2	尿検査	尿検査からわかること	
3	血液一般検査	血算、血液像	
4	生化学検査	全身状態 肝・胆道系 腎機能、電解質 脂質、糖尿病	
5	ホルモン検査 腫瘍マーカー 免疫血清学的検査 糞便検査・細菌検査		
6	症状から見た臨床検査	症状別おもな検査と診断	
7	心電図・画像検査 在宅医療と臨床検査  試験		
	テキスト	「検査の手引き」(小学館)	
	参考書		

授 業 科 目 名		医 学 概 論	担 当 教 員	栗 田 昌 裕	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	医学の歴史 1	医学の起源、古代の医学、中世の医学		医学概論、医学の定義	
2	医学の歴史 2	近世の医学、20 世紀の医学、日本の医学の歴史		医学概論、医学の定義	
3	病気の診断	問診、診察、臨床検査、臨床診断、遺伝子診断		一般臨床医学、内科学、 診断学	
4	病気の治療	治療法、現代の治療法、安静と食事と看護		一般臨床医学、内科学、 治療学	
5	病気の治療と リハビリテーション	リハビリテーション医学、総合的医療 目的、病気の回復、慢性疾患、施設と専門職		リハビリテーション医 学、医療行為	
6	健康と病気と 医学の体系	健康、個人と社会の責任、病気の理解と分類 病気と心の働き、医学の体系		健康・疾病の概念 医療行為	
7	病気の原因	病変と症状、病理学の分類と内容、病気の原因		病因論、病気の原因	
8	病気の原因	病気の内因と外因、原因不明の病気、身体の抵抗力		病因論	
9	病気による身体変化 1	病変の分類、血行障害による病変		循環障害	
10	病気による身体変化 2	進行性の病変、退行性の病変、炎症		進行性病変、退行性病変 と代謝異常、炎症・免疫	
11	病気による身体変化 3	腫瘍、良性腫瘍、悪性腫瘍、白血病、奇形、生体反応		腫瘍（新生物）、先天異常	
12	病気の予防 1	予防の原則、予防医学と衛生学		保険と医療	
13	病気の予防 2	健康診断、人間ドック、習慣病の予防		保険と医療	
14	新しい医療システム	医療システムの概要、自由診療、保険診療、慈善医療		保険と医療	
15	健康教育と衛生統計	新しい健康教育、衛生統計、衛生政策と公衆衛生 医療関係者と施設、医の倫理		医療行為、保険と医療 医の倫理	
テキスト		「系統看護学講座別巻 11 「医学概論」」 日野原重明著（医学書院）			
参考書					

授 業 科 目 名	老 年 医 学	担 当 教 員	栗 田 昌 裕
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	老化と老年病の考え方、生理機構の加齢変化	老化とは、加齢による生理機能の低下と疾病、老年症候群と機能評価、理学・作業療法との関連事項、感覚機能、自律機能、高次神経機能の加齢変化	加齢による病態生理変化
2	運動機能と精神心理面の加齢変化	高齢者の運動機能、運動機能の加齢変化、知能の障害発達、記憶の加齢変化、人格、老年期の創造性の特徴	老年疾患・障害の特徴
3	高齢者に特徴的な症候と疾患、老年症候群	老年症候群の概念、代表的な老年症候群	老年疾患・障害の特徴
4	循環器疾患、呼吸器疾患	循環器疾患：うっ血性心不全、虚血性心疾患、脳血管障害、血圧異常、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、血管疾患、呼吸器感染症、誤嚥と誤嚥性肺炎、肺癌、閉塞性肺疾患、間質性肺炎	循環器疾患、呼吸器疾患
5	消化器疾患	高齢者の消化器癌、上部消化管疾患、腸疾患、肝疾患、胆道・膵疾患	消化器疾患
6	骨運動器疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症、関節リウマチ	変形性関節症、慢性関節リウマチ
7	精神神経疾患	精神神経機能の老化、老年痴呆、うつ病、パーキンソン病、多系統萎縮症と自律神経障害、末梢神経障害	末梢神経疾患、自律神経疾患
8	内分泌代謝疾患、血液・免疫疾患	糖尿病、高脂血症、甲状腺疾患、痛風、貧血、白血病と骨髄低形成症候群、多発性骨髄腫、膠原病、	代謝・内分泌性疾患、血液疾患
9	腎・泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患	腎不全、尿路感染症、前立腺疾患、皮膚疾患、口腔疾患	腎疾患
10	感染症、高齢者との接し方	高齢者の感染症の原因と特徴、診断の進め方、治療の留意点、臓器別感染症の特徴、院内感染対策とMRSA、高齢者との接し方：医療従事者の心得、患者・家族とのかかわり	感染症
11	高齢者の機能評価	高齢者の機能評価の意義、日常生活活動度の評価、知的機能の評価、QOL の評価	加齢による病態生理変化
12	高齢者の退院支援 高齢者の定義および人口動態	高齢者における退院支援の必要性、介護保険下の退院支援、高齢者の定義、世界と日本における人口動態	高齢者の治療とケアの特徴
13	社会学・経済学から見た高齢社会、高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険	高齢社会の問題とは、生産人口、生産能力、健康度分布、世代間問題、高齢者の医療、看護、介護・福祉、介護保険制度、老人保健	高齢者の治療とケアの特徴
14	高齢者のリハビリテーション	高齢者のリハビリテーションの考え方、理学療法、作業療法、言語療法	高齢者の治療とケアの特徴
15	その他	必要に応じて時間的・内容的に補充する	
テキスト			
参考書		「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学」(医学書院)	

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 学	担 当 教 員	内 藤 和 美
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	公衆衛生の基本概念、	健康の概念 公衆衛生の概念 プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション WHO 疫学	Ⅲ保健医療福祉とリハビリテーションの理念 2. 公衆衛生学 A 健康・疾病・障害の概念と社会環境 a 健康の概念 B 疫学 a 疫学の概念
2	健康の指標	粗死亡率と年齢調整死亡率 乳児死亡率	C 人口・衛生統計 b 疾病・障害の統計
3	健康の指標	平均余命と平均寿命 PMI 死因別死亡率	C 人口・衛生統計 b 疾病・障害の統計
4	健康の指標 人口静態	有訴者率 受療率 患者調査 国勢調査 総人口 年齢別人口 労働人口 将来推計人口 世帯の動向	C 人口・衛生統計 b 疾病・障害の統計 C 人口・衛生統計 a 人口統計
5	人口動態	人口動態 5 事象 粗出生率 合計特殊出生率 再生産率 人口の高齢化	C 人口・衛生統計 a 人口統計
6	食品衛生 環境保健	食中毒とその予防、食品衛生、国民栄養調査 環境 典型 7 公害 地球環境問題	I 環境保健 a 環境汚染と公害
7	環境保健	水の衛生と水質汚濁 一般廃棄物と廃棄物処理	I 環境保健 a 環境汚染と公害
8	感染症対策	感染症の成り立ち(感染源 感染経路 宿主)とそれぞれの遮断手立て	H 感染症対策 a 現状と動向
9	感染症対策	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法、結核予防法、院内感染、新興感染症、再興感染症	H 感染症対策 a 現状と動向
10	生活と健康	疾病予防の3段階と各段階の主要対策 生活習慣病 生活習慣病のリスク要因と曝露の回避・低減－食事・栄養	D 健康管理 a 健康教育、健康増進 F 成人・老人保健 a 現状と動向
11	生活と健康	生活習慣病のリスク要因と曝露の回避・低減－睡眠、運動	D 健康管理 a 健康教育、健康増進 F 成人・老人保健 a 現状と動向
12	生活と健康	生活習慣病のリスク要因と曝露の回避・低減－飲酒、喫煙	D. 健康管理 a 健康教育、健康増進 F 成人・老人保健 a 現状と動向
13	労働と健康	産業保健の3領域－健康管理 作業管理 作業環境管理、トータルヘルスプロモーション	3. 保健医療福祉制度と関係法規 J 産業保健
14	労働と健康	職業性疾病 労働災害	3. 保健医療福祉制度と関係法規 J 産業保健
15	労働と健康	母性保護と両立支援－労働基準法 男女雇用機会均等法 IL0156 号条約	3. 保健医療福祉制度と関係法規 J 産業保健
テキスト		「国民衛生の動向 2003 年度版」厚生統計協会（厚生統計協会）2003	
参考書		「シンプル衛生公衆衛生学 2003」鈴木庄亮・久道茂編（南江堂）2004	



授 業 科 目 名	社 会 福 祉 学	担 当 教 員	金 谷 春 代
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	社会保障の概念	私達の生活と社会保障 社会保障の歴史を通して社会保障の捉え方を考える	
2	社会保険の概要	社会保障における社会保険の意味を考えながら、日常生活の中で、社会保険がどのような役割をしているのかを捉える	
3	健康保険法	健康保険法・国民健康保険法等の制度と概要を捉える	
4	社会福祉の概念	社会福祉の歴史から福祉の意義を考える	
5	生活保護法と施策	現代社会の中での生活保護とは何かを考え、制度概要を捉える	
6	児童福祉法と施策	児童を廻る問題と課題について、施策の流れの中で捉え、考察する	
7	身体障害者・児福祉と施策	身体障害者・児の福祉と施策についての概要を捉える	
8	知的障害者・児福祉と施策	知的障害者・児福祉と施策についての概要を捉える	
9	精神障害者・児福祉と施策	精神障害者・児福祉と施策についての概要を捉える	
10	老人福祉と施策	高齢化社会が社会にもたらす影響を考えながら、福祉・保健のあり方がどのように変化してきたかを捉える	
11	老人保健法と施策	高齢者にとっての医療の変遷を見ながら、医療のあり方を考える	
12	介護保険法	高齢者から始まった社会保険方式の介護保険がもたらす影響と制度について学習する	
13	社会福祉行政	社会福祉に関する行政機関等について学習する	
14	マンパワー	現代に求められる福祉のマンパワーについて考える	
15	試 験		
	テキスト	「新・社会福祉概論 変革期の福祉をみつめて」千葉茂明・宮田伸朗 (株式会社みらい)	
	参考書		

授 業 科 目 名	臨 床 運 動 学	担 当 教 員	江 口 勝 彦
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	コースオリエンテーション I. 総論①	臨床運動学概論 臨床運動学とは何か. 理学療法における基礎と臨床 (前提条件: 身体基礎運動学の修得)	基礎理学療法学全般 理学療法評価学全般 理学療法治療学全般
2 ~ 8	II. 概説 (病態運動学)	骨・関節・靭帯の障害 筋・軟部組織の障害 (テキスト P3~36)  末梢神経障害 (サブテキスト①41~74)  中枢神経障害 (サブテキスト①41~74)  呼吸機能障害 心機能障害 (サブテキスト①79~102)  各種合併症 I : ①廃用性萎縮 ②関節拘縮 ③異所性骨化 ④褥創 ⑤自立神経障害	
9 ~ 13	III. 演習	運動生理学 (文献講読・グループ発表)	
14 15	予備日 単位認定試験		
他	セミナー<応用編>	歩行の臨床運動学 (丸山仁司教授 特別講義) 臨床動作分析概論 (高橋正明教授 特別講義)	
	テキスト	1) 「臨床運動学」 丸山仁司 (アイペック) 2) 「からだの「仕組み」のサイエンス」宮下充正, 加賀谷淳子 (編) (杏林書院) 3) 「最も速くマスターできる心電図独習テキスト」半田俊之介, 後藤信哉 (監訳) (総合医学社)	
	参考書	<サブテキスト> <参考書> ・「カパンディ 関節の生理学 III 体幹・脊柱」荻島秀男 監訳 (医歯薬出版) ・「カパンディ 関節の生理学 II 下肢」荻島秀男 監訳 (医歯薬出版) ・「体表解剖と代償運動」竹内孝仁, 他 (編) (医歯薬出版) ・「臨床運動学」中村隆一 (医歯薬出版) ・「標準理学療法学専門分野「臨床動作分析」」高橋正明 (編) (医学書院) ・「関節の生理学 I 上肢」荻島秀男 監訳: カパンディ (医歯薬出版)	

授 業 科 目 名	理 学 療 法 研 究 法	担 当 教 員	松 澤 正
対 象 学 生	2 ～ 3 学 年	学 期	後期 (2 学年)・後期 (3 学年)
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		理学療法と研究 (オリエンテーション、研究の手段、着眼)	
2		情報収集法 (文献の集め方、読み方)	
3		仮説、プロトコールの立案	
4		研究発表の仕方	
5		論文の作成 1 (形式、内容、投稿規定、査読)	
6		論文の作成 2 (題名、著者名、序論、成績、考察、引用文献)	
7		臨床研究の実際 1 (機器を用いた研究)	
8		臨床研究の実際 2 (症例研究)	
9		理学療法研究に必要な統計 1	
10		理学療法研究に必要な統計 2	
11		文献抄読 1	
12		文献抄読 2	
13		文献抄読 3、まとめ	
14			
15			
	テキスト	「理学療法研究法」奈良 勲監修 (医学書院)	
	参考書		

授 業 科 目 名	理学療法評価学実習	担 当 教 員	富 田 浩
対 象 学 生	1 ~ 2 学 年	学 期	後期(1学年)・通年(2学年)
単 位 ( コ マ 数 )	3 単 位 ( 4 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	身体指標の触診	実習	基本的評価法 評価の過程と方法
2	形態測定	体格指数、四肢長、周径の測定方法	
3	形態測定	実習	
4	形態測定	実習	
5	関節可動域測定	講義	
6	関節可動域測定	実習	
7	関節可動域測定	実習	
8	関節可動域測定	実習	
9	関節可動域測定	実習	
10	関節可動域測定	実習	
11	実技試験		基本的評価法 評価の過程と方法
12	実技試験		
13	筋力検査	講義 徒手筋力検査法 (原理)	
14	筋力検査	実習 徒手筋力検査法 (頭頸部)	
15	筋力検査	実習 徒手筋力検査法 (体幹)	
16	筋力検査	実習 徒手筋力検査法 (上肢)	
17	筋力検査	実習 徒手筋力検査法 (上肢)	
18	筋力検査	実習 徒手筋力検査法 (上肢)	
19	筋力検査	実習 徒手筋力検査法 (下肢)	
20	筋力検査	実習 徒手筋力検査法 (下肢)	
21	筋力検査	実習 徒手筋力検査法 (下肢)	基本的評価法 評価の過程と方法
22	筋力検査	実習 徒手筋力検査法 (顔面)	
23	筋力検査	機器を用いた筋力検査	
24	筋力検査	筋持久力検査 他	
25	実技試験		基本的評価法 評価の過程と方法
26	実技試験		
27	バイタルサイン・意識レベルの評価	講義および実習	
28	痴呆・痛みの評価	講義および実習	基本的評価法 評価の過程と方法
29	筆記試験		
30	筆記試験		基本的評価法 評価の過程と方法
31	動作分析	実習	
32	動作分析	実習	
33	歩行分析	実習	
34	歩行分析	実習	
35	筋緊張検査	筋緊張、異常筋緊張、筋緊張検査法	
36	筋緊張検査	実習	障害別評価法 神経内科領域
37	片麻痺運動機能検査	中枢性運動障害、ブルンストローム片麻痺運動機能検査、12グレード片麻痺運動機能検査	
38	高次脳機能検査	講義および実習	
39	脳神経検査	講義および実習	

回	講義題目	教 科 内 容	国家試験出題基準
40	実技試験		
41	実技試験		
42	理学療法評価における記録方法	講義および実習	理学療法の過程 評価
43	理学療法評価結果の統合・解釈	講義・演習	理学療法評価の基本的 理解
44	理学療法評価結果の統合・解釈	講義・演習	
45	筆記試験		評価の時期と進め方
	テキスト	「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義昭，他（南山堂） 「新・徒手筋力検査法」津山直一/訳（協同医書） 「理学療法ハンドブック第1巻」細田多穂，他（協同医書） 「理学療法評価学」松澤正（金原出版）	
	参考書	「基礎運動学」中村隆一，（他医歯薬出版） 「触診解剖アトラス 頸部・体幹・上肢」奈良勲/監訳（医学書院） 「触診解剖アトラス 下肢」奈良勲/監訳（医学書院）	

授 業 科 目 名		物 理 療 法 実 習	担 当 教 員	目 黒 力	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 ( コ マ 数 )		1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		マッサージ療法		Ⅲ理学療法治療学	
2		マッサージ療法実習		2. 物理療法	
3		マッサージ療法実習		A 理論と基本技術	
4		実習ガイダンス		a 温熱・寒冷療法	
5		各班に分かれ以下の実習を行う。進行は各班ごとに異なる		b 電気刺激療法	
6		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		c 電磁波療法	
7		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		d 光線療法	
8		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		e 超音波療法	
9		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		f 水治療法	
10		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		g 牽引療法	
11		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		1. 運動療法	
12		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		A 理論と基本技術	
13		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		m マッサージ	
14		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		K バイオフィードバック	
15		実技テスト		療法	
テキスト		「標準理学療法学 専門分野 物理療法学」 監) 奈良勲 (医学書院)			
参考書		教員の別途用意したプリント			

授 業 科 目 名	神 経 系 疾 患 理 学 療 法	担 当 教 員	富 田 浩
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		脳血管障害・頭部外傷の理学療法	障害別評価法 障害領域の評価法 運動療法 障害領域の運動療法
2		脳血管障害・頭部外傷の理学療法	
3		脳血管障害・頭部外傷の理学療法	
4		パーキンソニズムの理学療法	
5		失調症の理学療法	
6		脊髄小脳変性症の理学療法	
7		筋萎縮性側索硬化症の理学療法	
8		多発性硬化症の理学療法	
9		ギラン・バレー症候群の理学療法	
10		脳性麻痺の理学療法	
11		脳性麻痺の理学療法	
12		進行性筋ジストロフィーの理学療法	
13		その他の小児疾患の理学療法	
14		実技試験	
15		筆記試験	
テキスト		「理学療法ハンドブック第2巻」細田多穂, 他/編 (協同医書) 「理学療法ハンドブック第3巻」細田多穂, 他/編 (協同医書) 「標準理学療法学 運動療法学 各論」吉尾雅春/編 (医学書院) 「PT マニュアル 小児の理学療法」河村光俊 (医歯薬出版)	
参考書		「運動療法学Ⅱ」山元総勝, 他/編 (神陵文庫)	

授 業 科 目 名	神経系疾患理学療法実習	担 当 教 員	柴 田 雅 祥
対 象 学 生	2 学 年	学 期	通 年
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		神経系疾患理学療法評価法概説(1)	障害別評価法 障害領域の評価法 運動療法 障害領域の運動療法
2		神経系疾患理学療法評価法概説(2)	
3		神経系疾患理学療法概説(1)	
4		神経系疾患理学療法概説(2)	
5		脳血管障害の理学療法評価(1)	
6		脳血管障害の理学療法評価(2)	
7		脳血管障害の理学療法(1)	
8		脳血管障害の理学療法(2)	
9		脳血管障害の理学療法(3)	
10		脳血管障害の理学療法(4)	
11		パーキンソン病(パーキンソニズム)の理学療法評価	
12		パーキンソン病(パーキンソニズム)の理学療法	
13		失調症(脊髄小脳変性症等)の理学療法評価	
14		失調症(脊髄小脳変性症等)の理学療法	
15		中間試験	
16		多発性硬化症の理学療法評価	
17		多発性硬化症の理学療法	
18		多発性神経炎の理学療法評価	
19		多発性神経炎の理学療法	
20		重症筋無力症の理学療法評価	
21		重症筋無力症の理学療法	
22		筋萎縮性側索硬化症の理学療法評価	
23		筋萎縮性側索硬化症の理学療法	
24		進行性筋ジストロフィー症の理学療法評価	
25		進行性筋ジストロフィー症の理学療法	
26		脳性麻痺の理学療法評価	
27		脳性麻痺の理学療法(1)	
28		脳性麻痺の理学療法(2)	
29		脳性麻痺の理学療法(3)	
30		最終試験	
	テキスト	「脳卒中理学療法テキスト」潮見泰蔵編(アイベック) 「理学療法ハンドブック ケーススタディ」細田多穂他編(協同医書) 「理学療法ハンドブック第1巻～第3巻」細田多穂他編(協同医書) 「ベッドサイドの神経の診かた」斉藤佳雄他(南山堂) 「理学療法評価学」松澤 正著(金原出版)	
	参考書	「神経疾患のリハビリテーション」平井俊策他編(南山堂) 「脳卒中最前線」福井圀彦他編(医師薬出版) 「脳卒中の運動訓練プログラム」横山 巖他編(医学書院) 「Steps to Follow」P.M.デービス著(シュプリンガー・フェアラーク東京) 「Right in the Middle」P.M.デービス著(シュプリンガー・フェアラーク東京)	



授 業 科 目 名	運 動 系 疾 患 理 学 療 法	担 当 教 員	富 田 和 秀
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		骨折・脱臼の運動療法 1	II. 理学療法評価学 ⇒A. 障害領域の評価法 (a. 整形外科領域)  III. 理学療法治療学 ⇒A. 障害領域の運動療法 (b. 整形外科領域)
2		骨折・脱臼の運動療法 2	
3		靭帯損傷・半月版損傷・腱断裂の運動療法 1 靭帯損傷・半月版損傷・腱断裂の運動療法 2	
4		変形性関節症の運動療法 1	
5		変形性関節症の運動療法 2	
6		肩関節痛の運動療法	
7		腰痛症の運動療法	
8		側腕症の運動療法	
9		関節リウマチの運動療法	
10		熱傷の運動療法	
11		脊髄損傷の運動療法	
12		筆記試験	
13		徒手療法① (担当：竹井仁)	
14		徒手療法② (担当：竹井仁)	
15		徒手療法③ (担当：竹井仁)	
テキスト	「標準理学療法学 運動療法学 各論」吉尾雅春編集 (医学書院) 配布プリント		
参考書	「理学療法ハンドブック第2巻」細田多穂編 (協同医書) 「理学療法ハンドブック第3巻」細田多穂編 (協同医書) 「運動療法学Ⅱ」山元総勝, 他編 (神陵文庫)		

授 業 科 目 名	運動系疾患理学療法実習	担 当 教 員	富 田 和 秀
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室 運動療法室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	オリエンテーション	本コースの紹介 治療の原則・概念を理解する 姿勢評価	Ⅱ. 理学療法評価学 ⇒A. 障害領域の評価法 (a. 整形外科領域)
2	股関節の評価・治療	股関節の評価1	Ⅲ. 理学療法治療学 ⇒A. 障害領域の運動療法 (b. 整形外科領域)
3		股関節の評価2	
4		股関節障害の代表的疾患の理学療法	
5	膝関節の評価・治療	膝関節の評価1	
6		膝関節の評価2	
7		膝関節の代表疾患の理学療法	
8	足部・足関節障害の 評価・治療	下腿・足関節・足部の評価	
9		足部・足関節の代表的疾患の理学療法	
10	肩甲帯関節の評価・ 治療	肩甲帯関節の評価	
11		肩関節障害の代表的疾患の理学療法	
12	単位認定試験	実技・口頭試問	
13	脊髄損傷の理学療法	脊髄損傷の理学療法① (担当：水上昌文)	
14		脊髄損傷の理学療法② (担当：水上昌文)	
15		脊髄損傷の理学療法③ (担当：水上昌文)	
	テキスト	「運動器疾患の評価」岩倉博光他監訳 (医薬薬出版) 「標準理学療法学 運動療法学 各論」吉尾雅春編集 (医学書院) 配布プリント	
	参考書	「整形外科理学療法の理論と技術」山寄勉編集 (メジカルビュー社) 「理学療法ハンドブック第2巻」細田多穂編 (協同医書) 「理学療法ハンドブック第3巻」細田多穂編 (協同医書) 「脊髄損傷マニュアルーリハビリテーション・マネージメント」 安藤徳彦著書 (医学書院) 「頸髄損傷のリハビリテーション」津山直一監修 (協同医書)	

授 業 科 目 名	呼吸循環系疾患理学療法	担 当 教 員	江 口 勝 彦
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	コースオリエンテーション 呼吸・循環・代謝の ダイナミズム	内部障害(呼吸・循環・代謝系疾患)理学療法概論 運動に関する呼吸・循環・代謝のダイナミズム	理学療法評価学 理学療法治療学
2	呼吸器系理学療法 における評価	評価の概要・理学的検査 呼吸機能検査(肺機能・呼吸筋) 血液ガス・画像診断・運動負荷試験	
3	呼吸器系理学療法 の基本手技①	運動療法 呼吸運動の制御法(breathing pattern control) 気管・気管支浄化法(drainage) 呼吸筋	
4	呼吸器系理学療法 の基本手技②	各種理学療法の実際(VTR 学習)	
5	呼吸器系理学療法 プロトコール	呼吸器内科系(慢性呼吸不全) 胸部・腹部外科系	
6	中間試験①	呼吸器系理学療法に関する試験	
7	循環器系理学療法 の意義	虚血性心疾患に対する運動療法の目的と意義 急速な身体運動に対する心血管反応(正常と異常)	
8	循環器系理学療法 における評価	評価の概要 理学療法評価	
9	心電図	刺激伝導系・標準心電図・心電図の解釈 理学療法に必要な心電図のミニマム知識	
10	心筋梗塞 のリハビリテーション	ガイドライン 心筋梗塞急性期・回復期・慢性期の理学療法	
11	中間試験②	循環器理学療法に関する試験	
12	代謝系理学療法①	生活習慣病と代謝系疾患 糖尿病理学療法評価	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
13	代謝系理学療法②	糖尿病理学療法 〈その他〉	
14	予備日		
15	単位認定試験		
	テキスト	1)「リハ実践テクニック 呼吸ケア」塩谷隆信, 高橋仁美(編)(メジカルビュー) 2)「(PT マニュアル)循環器疾患の理学療法」奈須田鎮雄, 他(医歯薬出版)	
	参考書	<p>&lt;サブテキスト&gt;</p> <p>☆「呼吸運動療法の理論と技術」本間生夫(監)(メジカルビュー社) ¥4,500 在学中はもとより卒業においても役立つと思われる好著.</p> <p>・「臨床リハ別冊／呼吸リハビリテーション」石田 暉, 他(編)(医歯薬出版) ¥5,040 システムづくり, 診断・評価, リハビリテーション・プログラムの選択と実際が わかりやすく提示. 総論を知識の理解編, 診断・評価編, 治療編に分け知識と手 技が簡潔に解説</p> <p>☆「狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション」木全心一(編著)(南江堂) ¥7,000 虚血性心疾患に対するリハビリテーションを包括的に網羅した教科書.</p> <p>☆「最も早くマスターできる心電図独習テキスト」半田俊之介, 他(監訳) (総合医学社). ¥3,800 初心者向けの最も分かり易いワークブック形式の独習テキスト.</p> <p>・「呼吸理学療法学」荻原新八郎(医学書院) ¥4,500 比較的詳しい記述の教科書</p> <p>・「内部障害のリハビリテーション」佐藤徳太郎(編)(医歯薬出版) ¥5,200 呼吸・循環・代謝のみならず, 内部障害のリハビリテーションを網羅して概説し ている</p> <p>・「血液ガストレーニング(第3版)」諏訪邦夫(中外医学社) ¥4,120 血液ガスの易しい解説書. 軽く読んで, 繰り返すのがコツとか</p> <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>「呼吸リハビリテーション入門」千住秀明(神陵文庫) (入門書)</p> <p>「呼吸理学療法」理学療法 Mook4, 宮川哲夫, 他編(三輪書店) (臨床的)</p> <p>「呼吸器疾患の運動療法と運動負荷テスト」谷本普一(克誠堂出版) (臨床的)</p> <p>「呼吸リハビリテーション・プログラムのガイドライン」日本呼吸管理学会(監訳) (ライフサイエンス出版) (基礎資料, 臨床的)</p> <p>「呼吸リハビリテーションマニュアル」 日本呼吸管理学会・日本呼吸器学会・日本理学療法士学会(編)(照林社) (基礎資料, 臨床的)</p> <p>「心臓リハビリテーション. メディカル」Louis R. Amundsen(吉松俊一, 他監訳) (葵出版) (入門書)</p> <p>「心臓リハビリテーション」日本心臓リハビリテーション学会(監訳) (日本心臓リハビリテーション学会 (基礎資料, 臨床的)</p> <p>「循環器 NOW10. 運動指導・運動療法」村山正博(担編)(南江堂) (臨床的)</p> <p>「Essential of Cardiopulmonary Physical Therapy 2nd edit」Hillegass, Sadowsky (W.B. Saunders Co.) (英語. でもお薦めの良書. 日本のこういう本が欲しい)</p> <p>「Physiotherapy for Respiratory and Cardiac Problems. 2nd edit」Pryor, Webber (Churchill Livingstone) (有名なブロンプトン病院のもの)</p> <p>「Cardiopulmonary Physical Therapy」Irwin, Tecklin (Mosby) (一寸ふるい?)</p>	

授 業 科 目 名	呼吸循環系疾患理学療法実習	担 当 教 員	富 田 和 秀
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	コースオリエンテーション	オリエンテーション	理学療法評価学 理学療法治療学
2	呼吸器系理学療法に おける評価	理学的所見の取り方①（問診・視診・触診）	
3		理学的所見の取り方②（打診法・聴診法）	
4		理学的所見の取り方③（打診法・聴診法）	
5		各検査・測定の取り方・見方①	
6		各検査・測定の取り方・見方②	
7		各検査・測定の取り方・見方③	
8	呼吸器系理学療法 の基本手技	歩行能力テスト①（シャトルウォーキング・6分間歩行など）	
9		歩行能力テスト②（シャトルウォーキング・6分間歩行など）	
10		リラクゼーション・呼吸練習	
11	循環系理学療法に おける評価	胸郭可動域練習・呼吸筋体操・呼吸筋ストレッチ	
12		呼吸筋トレーニング・運動療法	
13	リスク管理	体位排痰法	
14	単位認定試験②	運動負荷試験の実際	
15	その他	心電図モニター（不整脈をとらえる）	
		実技・口頭試問	
		心肺蘇生法を含む救急法（日本赤十字社）	
	テキスト	配布プリント	
	参考書	※基本的には呼吸循環系疾患理学療法（講義）で使用するものと同じとする。	

授 業 科 目 名	義 肢 装 具 学	担 当 教 員	江 口 勝 彦
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	コースオリエンテーション	装具学概論	理学療法評価学 理学療法治療学
2	下肢装具①	短下肢装具①	
3	下肢装具②	短下肢装具②	
4	下肢装具③	短下肢装具③	
5	下肢装具④	膝装具	
6	下肢装具⑤	長下肢装具①	
7	下肢装具⑦	長下肢装具②	
8	下肢装具⑧	靴型装具・足底装具・特殊整形靴	
9	体幹装具①	体幹装具①	
10	体幹装具②	体幹装具②	
11	体幹装具③	体幹装具③	
12	上肢装具①	上肢装具	
13	上肢装具②	手の装具・手指装具	
14	予備日		
15	単位認定試験		
	テキスト	1)「義肢装具のチェックポイント」日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会 (編) (医学書院)	
	参考書	<サブテキスト> ・「義肢装具学(第2版)」川村次郎, 竹内孝仁 (医学書院) ¥7,000 PT, OT 向けの教科書 ・「下肢切断の理学療法(第3版)」細田多穂(編) (医歯薬出版) ¥4,800 「義肢」ではなく「切断者のリハビリテーション, 理学療法の標準的テキスト」  <参考書> 「装具治療マニュアル」加倉井周一, 他 (医歯薬出版) (臨床的) 「こどものリハビリテーション医学」陣内一保, 他 (編) (医学書院) 「リハビリテーション技術全書(第2版)」服部一郎, 他 (医学書院) 「装具学」日本義肢装具学会 (編) (医歯薬出版) (義肢装具士向け?)	

授 業 科 目 名	義肢装具学実習	担 当 教 員	平 井 正 利
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	コースオリエンテーション	装具学実習概論・切断の理学療法 (江口)	理学療法評価学 理学療法治療学
2	切断と義肢	切断の義肢概論、分類 (平井)	
3	切断と義肢	歩行バイメカ・力学 (平井)	
4	切断と義肢	下腿義足① ソケット・足部 (平井)	
5	切断と義肢	下腿義足② ベンチアライメント・スタティックアライメント (平井)	
6	切断と義肢	下腿義足③ ダイナミックアライメント・異常歩行 (平井)	
7	切断と義肢	大腿義足① ソケット (平井)	
8	切断と義肢	大腿義足② 膝継手 (平井)	
9	切断と義肢	大腿義足③ ベンチアライメント・スタティックアライメント (平井)	
10	切断と義肢	大腿義足④ 組立実習 (平井)	
11	切断と義肢	大腿義足⑤ ダイナミックアライメント・異常歩行 (平井)	
12	切断と義肢	大腿義足⑥ 擬似体験歩行 (平井)	
13	車椅子	車椅子実習 (江口・内田和行)	
14	座位保持装置	座位保持装置実習 (江口・森田寅)	
15	単位認定試験	義肢に関する知識の口頭試問, ベンチアライメント・ダイナミックアライメント(歩行分析とアライメント調整) の実技試験 (平井)	
テキスト		「義肢学・日本義肢装具学会」(編)・医歯薬出版	
参考書			

授 業 科 目 名	日 常 生 活 活 動 学	担 当 教 員	柴 田 雅 祥
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		日常生活活動の概要	日常生活活動 (ADL) 概念と分類 基本技術と適応
2		日常生活活動の評価(1)	
3		日常生活活動の評価(2)	
4		起居動作(1)	
5		起居動作(2)	
6		歩行補助具	
7		移動・歩行動作	
8		トランスファー	
9		車椅子	
10		食事	
11		排泄	
12		入浴	
13		更衣・整容	
14		コミュニケーション	
15		試験	
	テキスト	「日常生活活動 (ADL)」橋本 隆他編集 (神陵文庫) 「新版 姿勢と動作」斉藤 宏他著 (メヂカルフレンド社)	
	参考書	「日常生活活動 (動作)」土屋弘吉他編集 (医歯薬出版) 「移動補助具」松原勝美著 (金原出版)	



授 業 科 目 名	日常生活活動学実習	担 当 教 員	柴 田 雅 祥
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		日常生活活動の評価	日常生活活動 (ADL) 概念と分類 基本技術と適応
2		脳血管障害(1)	
3		脳血管障害(2)	
4		脳血管障害(3)	
5		脊髄損傷(1)	
6		脊髄損傷(2)	
7		慢性関節リウマチ	
8		切断	
9		神経筋疾患(1)	
10		神経筋疾患(2)	
11		脳性麻痺・重症心身障害	
12		呼吸器・循環器疾患	
13		骨関節疾患	
14		高齢者	
15		試験	
	テキスト	「日常生活活動 (ADL)」橋本 隆他編集 (神陵文庫) 「新版 姿勢と動作」斉藤 宏他著 (メヂカルフレンド社)	
	参考書	「頸髄損傷のリハビリテーション」二瓶隆一他編集 (協同医書) 「日常生活活動 (動作)」土屋弘吉他編集 (医歯薬出版) 「移動補助具」松原勝美著 (金原出版)	

授 業 科 目 名	地 域 理 学 療 法 学	担 当 教 員	江 口 勝 彦
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ～ 3	コースオリエンテーション I. 総論	地域理学療法学概論 地域理学療法学とは. 地域理学療法実践の歴史 地域理学療法の機能	地域理学療法学 理念 CBR ノーマライゼーション
4 ～ 6	II. 概説	地域理学療法の背景. 病院・医療の変革. 診療報酬と 地域理学療法  地域理学療法の展開 1 病院・老人保健施設・ 小児施設・養護学校  展開 2 在宅訪問 ・ 小児在宅	保健医療福祉における 理学療法 病院・診療所との関 わり、小児の在宅・ 通園、訪問リハ
7 ～ 9	III. 特講 I	社会資源の活用と地域理学療法 (担当: 目黒 力)  保健医療福祉政策の動向・関連法規と地域理学療法 (特別講師: 秋山純和)	システム 社会資源  システム 制度と関連法規
10 ～ 11	III. 特講 II	展開 3 地域理学療法の実践: 保健所 (特別講師: 森倉三男)  展開 4 地域理学療法の実践: 都市型 (特別講師: 伊藤隆夫)	保健所・保健センター  市町村との関わり 都市型地域リハ
12 ～ 14	III. 演習	課題学習	全領域
15	単位認定試験	レポート課題による	
テキスト		掲示にて指定	
参考書		<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域理学療法」伊藤日出男, 香川幸次郎 (医歯薬出版) ¥3,500</li> <li>「理学療法士, 作業療法士のための地域リハビリテーション入門」 小川恵子, 森倉三男 (協同医書) ¥3,500</li> </ul>	

授 業 科 目 名	生 活 環 境 論	担 当 教 員	目 黒	力
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後	期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
1	生活と環境と障害者	人間と環境、日本人、文化、障害者	IV、地域理学療法学 2.生活環境整備 A バリアフリー環境 a. 住環境 b. 住宅改造 B リハビリテーション関連機器 a. 福祉用具 b. コミュニケーション機器 c. スポーツ・レクリエーション機器	
2	現代の日本	人間と環境、日本人、文化、障害者と環境要素		
3	行政・経済的環境	障害者を支える経済的援助制度・介護保険制度的・制度的の課題と実際		
4	居住環境	建築学的基礎		
5	居住環境	図面の読み方と書き方、障害者住宅		
6	居住環境	CAD 演習		
7	福祉・リハビリテーション機器	見学実習 I		
8	生活用具・機器開発研究	見学実習 II		
9	都市交通環境 I	都市と生活者、都市計画の基礎		
10	都市交通環境 II	バリアフリーのまちづくり、福祉のまちづくり		
11	都市交通環境演習 I	インスタントシニア、車いすなどを用いてすんでいる		
12	都市交通環境演習 II	まちをチェックする 学んだことを生かして、理学療法士の立場から		
13	発表会 I			
14	発表会 II			
15	試験			
テキスト	「生活環境論」木村哲彦監修 (医歯薬出版)			
参考書				

授 業 科 目 名	臨 床 実 習 I	担 当 教 員	松 澤 正
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		<p>1. 実習目標</p> <p>臨床実習 I は、評価 であり、患者の臨床的問題を解決するために 習の知識を総動員し理学療法評価、理学療 診断、治療指針、目標の設定ができるように ことを目標とする。理学療法の対象となる代表 疾患・障害を持つ適切な症例に対し、病歴な から適切な情報を整理し、その中から問題点 ( 説) を同定し、仮説を証明するために計画を て実施し、そこから得られた結果の解釈から らにその背景や関係を吟味し、分析統合を て、より具体的治療法に結びつく問題点とし 理する。さらに治療指針を考え、短期及び長 の目標を設定することができるように実習す。</p> <p>2. 実習方法</p> <p>学外実習病院・施設に いて、現場実習指導者の下で、適切な症例 ついて理学療法の評価法の実習を行なう。</p> <p>3. 実習期間</p> <p>7 月から 8 月の 2 週間の実習を行なう。</p>	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	臨 床 実 Ⅱ ・ Ⅲ	担 当 教 員	松 澤 正
対 象 学 生	3 学 年	学 期	前 期 ・ 後 期
単 位 ( コ マ 数 )	8 単 位 ・ 8 単 位	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		<p>1. 実習目標</p> <p>臨床実習Ⅰは、評価 であり、患者の臨床的問題を解決するために 習の知識を総動員し理学療法評価、理学療 診断、治療指針、目標の設定ができるように ことを目標とする。理学療法の対象となる代表 疾患・障害を持つ適切な症例に対し、病歴な から適切な情報を整理し、その中から問題点 ( 説) を同定し、仮説を証明するために計画を て実施し、そこから得られた結果の解釈から らにその背景や関係を吟味し、分析統合を て、より具体的治療法に結びつく問題点とし 理する。さらに治療指針を考え、短期及び長 の目標を設定することができるように実習す。</p> <p>2. 実習方法</p> <p>学外実習病院・施設に いて、現場実習指導者の下で、適切な症例 ついて理学療法の評価法の実習を行なう。</p> <p>3. 実習期間</p> <p>7月から8月の2週間の実習を行なう。</p>	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	スポーツ障害理学療法学	担 当 教 員	村 井 貞 夫
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ～ 15		<p>第1章アスレチック・リハビリテーション</p> <p>1. アスレチック・リハビリテーションの定義</p> <p>2. アスレチック・リハビリテーションの沿革</p> <p>3. アスレチック・リハビリテーションの分類</p> <p>  a アスレチック・リハビリテーションの運動療法</p> <p>  b アスレチック・リハビリテーションの物理療法     温熱療法、寒冷療法</p> <p>4. アスレチック・リハビリテーションの治療</p> <p>  ① 頭部外傷・障害リハビリテーション</p> <p>  ② 頸部外傷・障害リハビリテーション</p> <p>  ③ 肩関節外傷・障害リハビリテーション</p> <p>  ④ 上肢外傷・障害リハビリテーション</p> <p>  ⑤ 体幹外傷・障害リハビリテーション</p> <p>  ⑥ 骨盤外傷・障害リハビリテーション</p> <p>  ⑦ 下肢部外傷・障害リハビリテーション</p> <p>  a 大腿部 b 膝関節 c 下腿部 e 足関節</p> <p>5. アスレチック・リハビリテーションの実技</p> <p>第2章アスレチック・マッサージ</p> <p>1. アスレチック・マッサージの定義</p> <p>2. アスレチック・マッサージの沿革</p> <p>3. アスレチック・マッサージの分類</p> <p>4. アスレチック・マッサージの適応と禁忌</p> <p>5. 施術の注意</p> <p>6. アスレチック・マッサージの実技</p> <p>  手技の分類とその方法</p> <p>  ① 軽擦法   ② 揉捏法   ③ 圧迫法   ④ 叩打法</p> <p>  ⑤ 振戦法   ⑥ 伸展法   ⑦ その他</p> <p>第3章アスレチック・テーピング</p> <p>1. アスレチック・テーピングの定義</p> <p>2. アスレチック・テーピングの分類</p> <p>3. 実技・目的</p> <p>  ① 応急処置   ② 予防   ③ 再発予防</p> <p>第4章徒手療法</p> <p>1. 徒手療法の体系</p> <p>2. 徒手療法各手技の概説</p> <p>3. 実技</p>	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	在宅ケア理学療法学	担 当 教 員	平 石 恒 男
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		地域理学療法概念	
2		保健、医療、福祉の動向	
3		老人保健法による機能訓練事業	
4		介護保険と理学療法	
5		訪問リハビリテーション	
6		通所リハビリテーション	
7		高齢者の理学療法評価	
8		家屋改造（実例を通して）	
9		車椅子の選択	
10		歩行補助具の選択（杖、歩行器）	
11		障害者用自動車	
12		福祉用具の選択	
13		在宅リハ見学	
14		在宅リハ見学	
15		在宅リハ見学	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	言 語 治 療 学	担 当 教 員	谷 哲 夫
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		言語療法総論	
2		失語症の古典的分類	
3		失語症検査	
4		失語症のリハビリテーション	
5		特殊な失語	
6		失行・失認	
7		記憶障害	
8		言語の発達	
9		小児の言語障害	
10		構音障害の評価	
11		構音障害のリハビリテーション	
12		嚥下障害の評価	
13		嚥下障害のリハビリテーション基礎	
14		嚥下障害のリハビリテーション実践	
15		言語聴覚士の役割	
	テキスト		
	参考書		



授 業 科 目 名	看 護 学	担 当 教 員	高 木 タ カ 子
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	生命と看護 「いのち」と看護	①「生命」の夜明け——生命を考える意義 ②人類の出現 ◆レポート課題「人間とは」	
2	個体と環境の関わり	①生態系のなかの人間——生きていくことの3つの特性 ②恒常性維持の機構 ③適応のシステム ④人間であるために必要な環境 a. 意識ある生命現象、意識のない生命現象 b. 「生きていく」状態の3段階——看護の原点とは ◆レポート課題「健康とは」	
3	健康成立の条件	①健康という現象——健康とは ②求められる健康観 ③クオリティ・オブ・ライフ ④健康成立の条件	
4	健康と看護	①セルフ・ケアと看護 ②健康と看護ケア ③健康障害と看護ケア	
5	看護の軌跡	①医療の中で必要とされた職業看護 a. 職業看護の成り立ち b. 看護独自の役割の模索 c. ブラウン報告 ②看護観とその流れ——ナイチンゲールの功績	
6	現代看護の理論領域	①人間に内在するものについての理論 ②人間関係理論 ③システム理論 ④ケア理論	
7	看護の概念	①看護ケアの本質——医療の中で正常性を求め維持する看護ケア a. 看護ケアに必要な患者の健康部分に視点を置いた働きかけ b. 看護ケアの日常性と安全・安楽の確保 c. 看護ケアにおける「手」と「言葉」そして「眼」 d. 看護の統合は科学である	
8		②専門職としての看護の定義	
9	看護の対象と看護の機能	①全体としての人間——看護の方向 ②人間の生命学的基盤 ③人間と欲求 ④人間形成における社会的・文化的条件 ⑤疾患や身体的障害の人間的意味の理解	
10			

回	講義題目	教 科 内 容	国家試験出題基準
11	保健医療のなかの看護	⑥人間の生命維持に関わる生活機能の日常性と看護ケア a. 呼吸 b. 循環 c. 体温調節 d. 栄養と食事 e. 排泄 f. 運動と休息・睡眠 g. 清潔 ⑦人間の内面的理解とそれに基づく看護ケア ⑧統合的存在としての人間の看護 ⑨ライフサイクルに応じた看護の機能 ①保健医療の概念と看護 ②総合保健医療と総合看護 ③保健医療活動とこれからの展望 a. 健康の保持・増進 b. 健康障害と回復 c. プライマリ・ヘルス・ケアと看護 d. 高齢化社会と保健活動 e. リハビリテーションと看護	
12	チーム医療と看護管理	①チーム医療の中の看護活動 a. チーム医療の必要性 b. チーム医療における看護師の位置づけ ②チーム医療における看護師の役割	
13	看護の実践	①看護の目標 a. よく観、よく聴き、よくわかること b. 看護技術 c. 看護過程	
14	骨盤底筋（演習）	①骨盤底筋の診断 ②骨盤底筋の運動と指導	
15	まとめ	まとめ	
テキスト			
参考書			

授 業 科 目 名	福 祉 機 器 概 論	担 当 教 員	目 黒 力
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	福祉機器概論	歴史、定義、関連領域との関わり、開発	IV地域理学療法学
2	法的諸制度	介護保険法、交付適応など	2. 生活環境整備
3	工学的基礎	数量的解析、実験手法、統計学的解析	B. リハビリテーション関連機器
4	各論	移動・運動機能に関する機器	
5		感覚機能に関する機器	a. 福祉用具
6		生活環境に関連する機器	b. コミュニケーション機器
7		バリアフリーを実現する機器	器
8		ネットワークを利用した機器	c. スポーツ・レクリエーション機器
9	姿勢保持装置	実習	
10		実習	
12		実習	
12	福祉機器開発	見学実習	
13		見学実習	
14	自助具	実習	
15		実習	
	テキスト	「バリアフリーのための福祉技術入門」 監) 足立芳寛 (オーム社)	
	参考書		

授 業 科 目 名	運 動 療 法 特 論	担 当 教 員	柳 澤 健
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 ( コ マ 数 )	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		固有受容性神経筋促通法 (PNF)	
2		PNF の原理 1	
3		PNF の原理 2	
4		基本パターン 1 - 上肢 -	
5		基本パターン 2 - 上肢 -	
6		基本パターン 3 - 上肢 -	
7		基本パターン 4 - 下肢 -	
8		基本パターン 5 - 下肢 -	
9		基本パターン 6 - 下肢 -	
10		特殊テクニック	
11		肩甲骨・骨盤のパターン	
12		体幹のパターン	
13		歩行	
14		応用 1	
15		応用 2	
		実技テスト	
	テキスト	「PNF マニュアル」柳澤健他著 (南山堂)	
	参考書		

